

## 農産物處理管見

廣島縣立吉田農學校長 三 堀 龜 吉

權威ある農林學大集會に列し光榮ある意見發表の壇上に立ちまして卑見を述べ得るに至りましたことは私の最も欣幸とする所であります。農産物處理管見を題しまして所懐の一端を申し述べ、各位の御叱正を仰ぎたいと存じます。私が茲に農産物を申しますのは廣義の夫れでなく極めて狭い意味の粗生産品のみを指すのであります。此粗生産品を如何に處理すべきかに就ての管見であります。

惟ふに従來、農政の方面でも農業教育の方面でも、生産技術の方面に偏して經濟的方面を忽緒に附した傾きがある。農産物の生産には随分力が入られて居るが、其處理に就ては稍閑却されたのではないかと思はれるのであります。主産物たる米の如きは検査の規程もあり、農業倉庫業法なるものもあつて稍其處に方法が立てられて居りますが、之れさへ指導上に於て多くの缺陷を見出す憾みがあるのであります。即ち今まで農業の指導を云へば生産技術の夫れであつて農業經營の全般でなく、農業指導者は技師、技手、技術員と呼ばれ、其人の技能も自然其方面に堪能である様に思はれます。今一層農産物處理の事から更に經濟的方面に知能あり、手駒ある者を欲しいと存じます。其爲には

農業教育の方面語を換へて申せば、此の指導者の養成方法に一大考慮を廻らしたるものだと感ひます。之れまでの農業教育は播種耕耘施肥收穫を云つた様に、生産技術の方面に就ては相當の設備もあり施設もあり、相當大きな力が用ひられて居りますが、經濟方面又農産物處理に關しては設備に於て又施設の修養に於ても著しく不足せる感が

するのであります。之に就て思ひますのは實業學校教員檢定に關する規程其他でありますが、同規程の農業に關する部として耕種、蠶業、畜産、農藝化學云つた様に局部的生産技術の檢定に依て免許狀が下附されつゝあります。そして農業經濟は之を別に一科目として取扱はれて居ります。勿論前記諸學科の檢定にも其試驗問題の内に經濟のことも出題される筈にはなつて居るさうですが、其程度が低きに過ぎはせぬか云ふ感が致すのであります。又

農業學校の實際に就て見ても其中等程度のものにあつては多く此方面の設備施設に缺陥が多い様であります。即ち農産製造室や農産加工室、火力乾燥室、乾草場云つた様なものが完全に出来て居らぬのを見受けぬのであります。偶々之等設備のある農學校があれば生産方面の設備は更に一層完備して居るのであります。米作の段當收量、養蠶の對蠶量收量高其處までの統計はよくされて居る學校もありますが、夫れから先きの數字が捨てられて居る所が多い様であります。今や農業も一つの

企業であらねばならぬを考へらるゝ時、農業の指導者、農業の教育者、農業教育の機關が此くの如くであつては甚だ心細い感が致すのであります。何石の米、何貫の繭云ふことは農業經營の一途中であつて未だ終極ではないのであります。須らく最終の決算を行ひ之れに依て農業の成績を論じたいものだと存じます。此く觀じ來る時

農産物處理問題の重要性を擧めずには居れぬのであります。農産物を如何に處理すべきかの問題、此問題に就ては先づ(一)自家消費(二)販賣處理の二方面に考へねばならぬと思ひます。自家消費は家人の食料なることが其主なるものであります。此の食料消費に就ても成るべく之れを美味に成るべく之を營養價大に消費したいものだと存じます。經濟に直接關係を持つことは小さくても間接に農業經濟を交渉する所は決して小さいものでないであります。

販賣處理、之れが農業經濟に直接至大の關係を有するこゝは申すまでもありません。此の問題に就ては先づ(1)粗生産の儘販賣するか否か(2)云ふ點に考慮を拂はねばなりません。又等しく粗生産の儘賣るごしても(イ)直に賣るか、(ロ)時期を待つて賣るか、(ハ)時期を待つごすれば其貯藏所は如何、其貯藏法は如何(3)云つた風に各種の考慮を要するのであります。從來の如く收穫の時即ち販賣の時(3)信じて居ては折角汗(3)脂で得た農産物も、其質に於て其量に於て不足なくとも、企業(3)して見る時大きな不利を見ねばならぬのであります。即ち米價に不自然の騰落があり蘭蔬菜果實等の棄て賣り(3)云つた様な憂き目を見るのであります。思ふに粗生産の儘賣るのを利(3)するごも勿論ありませう、又直に賣る時期を見て賣る其何れにも有利な場合がありませう、之れ(3)同時に人工を加へて賣るごの更に有利な時もあるごを想像し得るのであります。

加工するごすれば(イ)其時期は如何、(ロ)其種類は如何、程度は如何、又(ハ)其設備は如何、方法は如何(3)種々研究をせねばなりません。工業の未だ幼稚であつた頃には農産物も相當に農業者自身の手(3)に依て加工されたのであります。が、工業の發達は之れを壓迫し之れを奪ひ去つた形があります。併し如何に工業が發達しても猶農業者其人の手(3)に依る加工を有利(3)する場合は多々あるご思ひます。制限された時間で其例をも舉げ得ぬ(3)は遺憾であります。兎も角指導に於ても教育に於ても此の方面に一段の研究を積み充分に力を注ぎたいものだ(3)存じます。最後に農産物販賣處理の一般的方法に就て一言致します。農産物を販賣する(3)しては是非之れが商品化(3)云ふ(3)ことに注意せねばなりません。商品化に就ては第一に精選して質の揃つたものにする(3)こと、第二に荷造りを一定して取引の際一々其量(3)をあた(3)る(3)こと云ふ繁瑣を除く(3)こと、第三に大量取引に依て手數や運賃を省く(3)こと、此の三點は最も大切な(3)こと(3)で之れが出来(3)る(3)ことに依て賣手

さしての強みを持ち得るに信するであります。而して之れが實行に當りては共同團結の精神、此の精神の發揮即ち組合の力に俟つべきだに存じます。渾然として融和せる組合の力に依て農産物の處理に當るならば必ずや有利に實行し得ることを信じます。

與へられたる時間は將さに盡きんとして居ります。ほんの概論だけを申述べましたのであります。

## 農業經營に於ける集約度と收利力との關係

京都帝國大學農學部 稻垣玄喜

### (一)問題の展開

獨逸にありては、世界大戰の終了後財界がさみに難況に陥り、一方金融を逼迫せしむるに共に、他方市況を悪化せしむるに至つた。かゝる經濟界の變動は惹いて農業經營經濟を苦況に導き、ことに部分的な粗放化を見ることとなつた。經營を粗放にし、若くは集約にするに於ては、從來からも土地に働く收穫遞減則を中心として、私經濟上並に國民經濟上から論争されてゐる。云ふ迄もなく獨逸に於てもかゝる現實に當面して理論家、實際家の間にこれが注意を喚起せしめ、言葉通り甲論乙駁その盡くるを知らないこと云ふ有様であるが、その最高潮に達したのは、獨逸農會議長ブランデスと國立銀行總裁シャハトとの間に行はれた論争である。即ちブランデスが粗放化の有利性を主張して、土地所有問題が生産増加の問題よりも重要であること云ふに對し、シャハトは農業者に與へた信用は總て之を農業者が生産増